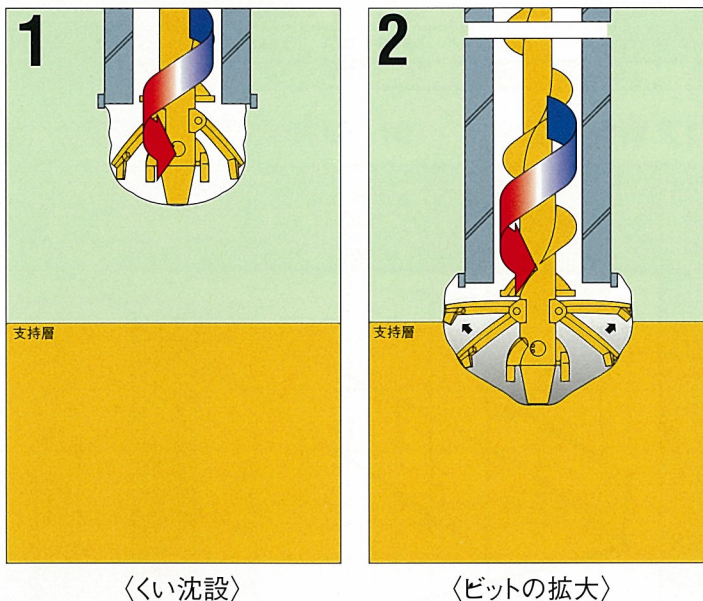




〈くいの沈設〉

〈ビットの拡大〉

## 1 くいの沈設

支持層付近までは、くい外径以下のビット径で、ビットから圧縮空気を出しながら、くい先端地盤を掘削してくいを沈設します。

## 2 ビットの拡大

支持層付近に達すると拡大ビットをくい外径以上にするために、オーガースクリューの回転を正から逆、さらに正の操作を行なうことによりビットは拡大状態で固定されます。このような構造であるため拡大状態の確認は拡大翼をくいに接触させて行います。

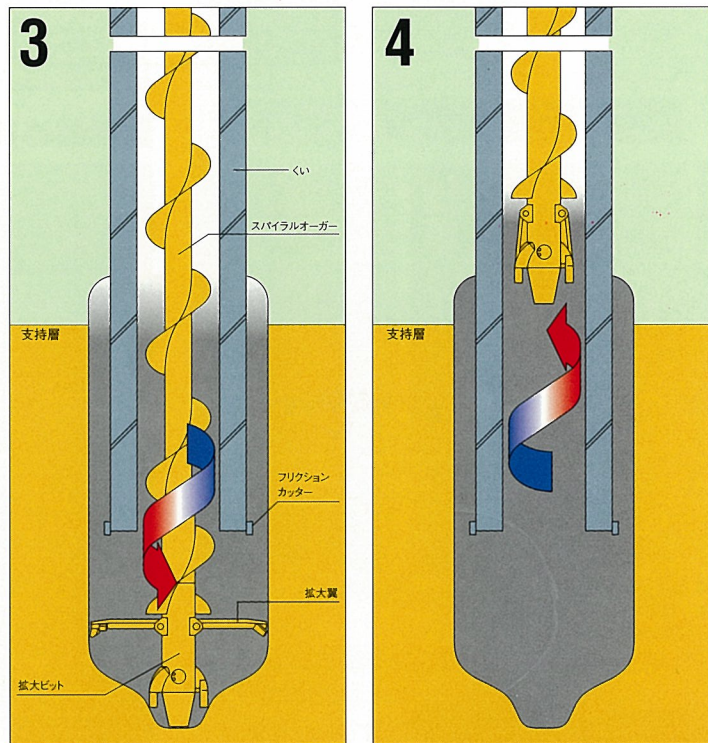
※700φ以上の大径くいの根固め用ビットは強制(油圧)拡大ビットを使用します。

## 3 拡大球根の築造とくい定着

ビットの拡大状態を確認した後、根固め材を注入しながら支持層を攪拌し、支持層の砂・礫と十分混合させて拡大球根を築造します。あわせてくいを拡大球根部に沈設しながら、所定深度に定着し、くいと支持層の一体化を行います。

## 4 ビットの閉じ

くいを定着させた後、オーガースクリューを逆回転させ、ロックを解除します。さらに、回転させながら、くい中空部に引き上げビットの翼を閉じます。そしてオーガースクリューを引き上げて作業を完了します。

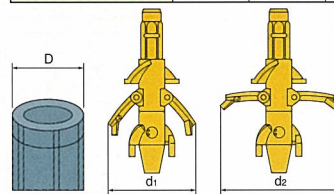


〈拡大球根の築造とくい定着〉

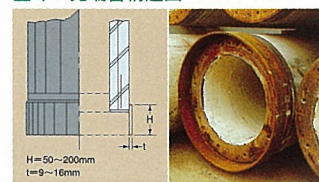
〈ビットの閉じ〉

### ●くいと拡大ビット径

| く い 径 (φ <sub>m</sub> ) D               | 450 | 500 | 600 | 700 | 800 | 900   | 1,000 |
|-----------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 根固め拡大径 (φ <sub>m</sub> ) d <sub>2</sub> | 550 | 600 | 700 | 840 | 960 | 1,080 | 1,200 |



### ■くい先端構造図



### ●使用くい寸法表

| く い 径 ( D ) | 450      | 500      | 600      | 700       | 800       | 900       | 1000      |
|-------------|----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 壁 厚 ( T )   | 70 (PHC) | 80 (PHC) | 90 (PHC) | 100 (PHC) | 110 (PHC) | 120 (PHC) | 130 (PHC) |
| く い内径 ( d ) | 310      | 340      | 420      | 500       | 580       | 660       | 740       |

※壁厚は製造上、厚めに管理していますので実際のくい内径は15mm以上小さくなります。

オーガー径は公称、くい内径の-30mm~50mmのものを使用します。